

沖縄での泡盛体験／ゆいレール応援酒『鐵の道』

12月1日から6日まで那覇市を、同学会の関西学生会が企画と云い換え、地域快活を行って訪ねた。日本機械学会の講演会がした神戸、那覇の船上大学という。その対象として、ローカル鉄（ゆいレール）と沖縄の地酒である琉球大学工学部で開催されたの行事に参加し、返還直後の沖縄を道（地方鉄道）と沿線の酒蔵のころ泡盛で、ゆいレール応援酒『鐵の道』を開発する計画を立て、妻と一緒に出かけた。今年は、視察&体験した。それから半世紀、ラボを進めてきた。具体的には、泡盛と鉄道の関連法人にこれを提案すること、沖縄訪問の目的と

島の酒フェスタ&

巨大なシーサー

入した。2日からの「島当たりがいい。すっかり泡盛ファンになった。2日からの「島の酒フェスタ」は、ゆいレールになった。

訪問初日、那覇空港からゆいレールを会場に沖縄県酒造組合が主催、唯一の強弱。沖縄の仕事着「か」を使う点において極めて日本的なレールで県庁前駅を降りると、泡盛のある酒造が翌日から始まる（写真）。人も多くフェスタ会場を覗いて講演した。翌日4日は「ENJOY島の酒フェスタ」のは元気がいい。泡盛を本格的に転じ暖かい日、半袖のかりゆしウエアを買って、以降はこれを着用し「鐵の道」を話題にし予約券も購入が、アルコール度数は高いが、口た。

坂口謹一郎博士の石碑発見

りて観光、訪問の最終日6日には、那覇の県立博物館で、地元の写真家・（故）

4日は那覇からレン平良孝七の写真展があり、復帰タカで、中城村とう時から近年に至るまでの沖縄の歴史を日常の写真を通して確認した。『元米兵の見たO』で、かつ教えられた。



牧志駅前広場にある巨大なシーサー

地元力発見!

38

佐藤建吉 「洗楓座」代表

歴史資料図書館の館長 合へ挨拶のため訪問。組合本部とも意見交換した。『うはに着き目についたのが大きなましまカラ芸術祭 石碑で、それには、著名な坂口2022』も鑑賞。5 謹一郎博士による「君知るや名日には、那覇をゆつく酒あわもり」の刻字があった。



坂口謹一郎博士の刻字

1950年山形生まれ。東京都立大卒。元千葉大大学院工学研究科准教授（金属疲労専攻）。金属疲労の研究のほか、他分野のテーマの研究開発に努めるとともに日本各地の地域おこし活動に従事する。ローカル鉄道と地元の酒蔵のころラボで地域再生を図る地酒「鐵の道」の製造・販売を企画、すでに10件を超える銘柄を送り出している。一般社団法人「洗楓座」代表。一般財団法人「エココミュニケーション」代表。

酒」と言えるのである。「君知るや 銘酒 泡盛」という、醸造学界の日本の至宝 坂口謹一郎博士のことは、まさにこの日本が世界に誇りうる酒 泡盛の本質を表わしたものである。・」（平成21年6月12日）

この泡盛の伝統と誇りを筆者も心根として、組合の役員と意見交換した。その後、応援対象である「ゆいレール」の沖縄都市モノレール株式会社を訪問、筆者の本土での『鐵の道』についての取組を説明し賛同を願った。同社は沖縄空港に近接している。沖縄で得た多くの体験と思いを抱き、成田への夕方便に乗った。以上、訪問の概要を紹介した。